

平成 28 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月

1. 学校概要

学校名 広島市立幟町小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒 730-0016
広島市中区幟町 3-10

E-mail : nobori@e.city.hiroshima.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 275 名 女子 250 名 合計 525 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

活動内容

(1) 幟町小学校平和教育について

①ねらい

佐々木禎子さんの後輩として平和を愛し、命を大切に子どもを育てる。

②実践にあたって

- ・ 広島市平和教育プログラム（平和ノート）を軸にし、本校独自の平和学習を取り入れて進めていく。
- ・ 地域の歴史や生活と結びついた教材を用いる。
- ・ 子どもたちに主体的、体験的、集団的な取組をさせる。

(2) 幟町小学校平和教育年間指導計画について・・・・・・・・・・資料1

子どもの発達段階に応じたねらいを定め、年間を通して平和学習を進めていく。

(3) 取組の実際・・・・・・・・・・資料2

①折り鶴集会

7月8日（金）に折り鶴集会を行った。事前の折り鶴を折る会では、たてわり班のみんなで協力して、3000羽の折り鶴を作り、その折り鶴を3つの千羽鶴に束ね、ステージに飾った。

集会では、6年生児童代表が、ピースサミット作文の発表をした。自宅にある被爆した大銀杏に思いをはせ、平和について考えていることを作文に書いていた。全校の前で、原稿を見ず堂々と発表できた。

次に、被爆体験の語り部をされている鳥越不二夫先生を講師としてお招きし、ご本人の被爆体験やハーモニカ演奏を聞かせていただいた。14歳のときに自宅前で被爆したことや平和の大切さを教えていただいた。「戦争は人の心の中から生まれる」「今、息をしていることが幸せに感じる」印象的な言葉に、子どもたちは、熱心に耳を傾けていた。

今回の折り鶴集会で学んだこと、感じたことを8月6日の平和集会につなげていけるように、学級で事後指導を行った。

②平和集会

広島に原爆が投下されて71年経った8月6日に平和集会を行った。テレビ映像を通して平和記念式典に参加し、黙禱したり平和宣言を聞いたりすることを通して、原爆犠牲者を追悼し、平和について考えることをねらいとした。

体育館には折り鶴や5年生児童が作った灯籠が並べられ、厳かな雰囲気であった。

全校で折った3つの千羽鶴をお供えしてきた運営委員会の報告や5年生の呼びかけ、「アオギリのうた」の全校合唱をした。

広島子ども、佐々木禎子さんの母校子どもとして、ひとりひとりが平和や命の大切さについて考えることができた。

③コスモス集会

10月25日は、本校卒業生である佐々木禎子さんの命日である。毎年10月25日にコスモス集会を開いて、禎子さんの生涯について、また禎子さんの思いについて学び、みんなで平和について考えている。

禎子さんは入院中、千羽鶴が送られたことがきっかけで、自分でも千羽鶴を折り始めた。次第に体力が弱っていく中、折紙や薬の紙で鶴を折り続けた。本校には、禎子さんが折った鶴が展示されている。

運営委員児童が、禎子さんについてと原爆の子の像ができた経緯について発表した。4年生児童は、総合的な学習の時間に学習してきた禎子さんの願いや自分たちの思いについて発表をした。みんな真剣に聞くことができ、命の大切さについて考えることができた。

最後に、「禎子さん、安らかにお眠りください。」「二度と戦争が起こりませんように。」「禎子さんの思いは、後輩の私たちが受け継ぎ、世界に広めていきます。」という気持ちで、『折り鶴のとぶ日』の歌を合唱した。

(4) 成果と課題について

振り返りアンケートの結果によると、「平和について考えを深めることができた」児童が、折り鶴集会後は97%、コスモス集会後は98%であったことから、被爆や平和に関する児童の関心が高いことが分かる。毎年継続して取り組むことで、児童の発達段階に応じた理解や気持ちの変容なども見られた。

また、体験的な学習を取り入れたり、マスコミ取材を受けたりしたことで、子どもたちが平和学習で学んだことを発信する機会がたくさあった。

課題として、取組が形骸化しないようにすることがあげられる。集会をすることが目的になってしまわないように、毎回しっかりとねらいを確認する必要がある。

(5) 来年度に向けて

今年度の課題をふまえて「平和の担い手となる子ども」を育てることを目標に、より体験的な取組をしていくことを目指して、長崎市の小学校と平和学習交流をしていく計画を進めている。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）